

ASEAN グローバルプログラムで 得た経験

高山 啓
Kei TAKAYAMA
物質化学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけて、東南アジアのベトナムのハノイ市とシンガポールで ASEAN グローバルプログラムに参加した。ベトナムでは日系企業や現地企業への訪問、ハノイ工業大学の学生と合同で PBL (Problem Based Learning) の実施、シンガポールでは現地の大学の講義体験や研究室見学、大学生との交流、シンガポールで働く日本のビジネスパーソンの方々との交流、そしてシンガポールで日本人の起こす企業の資本と経営に参画している加藤順彦氏の講演会といったプログラムであった。

2. 志望動機

今回私がこのプログラムに参加した理由は、私は海外で仕事をするに憧れを持っていて、将来は大学で学んだことを活かして海外で就職することを進路の一つとして考えていたからである。しかし、私はこれまで海外経験がなく留学や海外旅行に行きたいと思ってはいたが、実際に行動に移せず日本を出るきっかけを持てずにいた。そんな時にこのプログラムの存在を知り、自分にとって新しい経験がえられるのではないか、自分が成長できる機会になるのではないかと思ったので参加した。

3. 初めての海外

3.1 ベトナム

ベトナムは人口が日本に近く、GDP が上がり続けている経済的に成長している国だ。今回私たちが行った首都ハノイ市では現在進行形で成長していることが目で見て感じ取れた。「以前はごみが溢れて

いた道端がきれいになって道路も以前に増して整備されている」と同行した先生が話されていて、ハノイ市内に一本しかない電車で他の新しい線が作られている様子も移動中のバスから見れた。次回、ベトナムを訪れる時はもっと発展しているだろうと楽しみである。

3.2 シンガポール

シンガポールは国土面積がとても狭く東京 23 区や、琵琶湖、淡路島と同じ面積の国だが、経済的に成長を遂げている国だ。シンガポールは他の国々と比べて歴史が非常に浅い (52 年) が、私が実際に見たシンガポールは、短い歴史とは思えないほどの発展を続けている国だと実感した。ごみ一つなくきれいに舗装されている道路、まるで東京の中心にいかのように思わせる高層ビルの数々、新しく建設途中の高層ビルの鉄骨など、至る所で都市が成長しているのを実感したが、私がシンガポールの街中を歩いている中でなぜここまで成長できたかの秘密が少しわかるような光景を見た。それはシンガポールの F1 の競技場の観客席を組み立てているところを見たからだ。シンガポールの産業が 9 割以上を占めるほど観光産業で国の経営を行っている国で、国の収益になることは何でも国の直下事業として行うという特徴を持っていると理解した。私の目には競技場の観客席を造っている様子とその特徴を象徴しているかのように見え、自国の特徴を活かし発展していく様子が感じられた。

4. 日系企業「タカギベトナム」訪問

これらのプログラムの中で、私は特に、ベトナムにおいて日系企業を訪問したことについて報告する。

私たちが訪問した日系企業は、日本で蛇口一体型浄水器製造販売の浄水器事業や園芸用の散水ノズルなど、園芸散水用品の製造販売などの散水事業をしているハノイの日系企業「Takagi Vietnam」で、その工場を見学させていただいた。そこでは日本に輸

出すための散水用品の組み立て作業、プラスチック金型の加工、製作、メンテナンスなどを見ることができた。この企業訪問で、今後 Takagi Vietnam がやっていきたい事業の話を担当して下さった竹内様の「今は日本向けに制作してから輸出という企業形態だが、いずれはベトナムの水道水を飲める水にしたい」という言葉が、とても印象に残った。現在のベトナムの水道水は日本の水道水とは違い、飲むことができず、飲んでもお腹を壊してしまう水とのことであった。そのため浄水の目的も、日本のように飲める水をおいしくするためではなく、飲めない水を飲める水にするということなのでとても難しいと話されていた。

私はこの話を聞いて日本の企業は自分の持っている技術を外国の地で日本のためだけに使うのではなく、今自分たちがいる地で現地の人々のために技術を使っていることが伝わり、日本の企業が海外進出をする際日本のために仕事をするのではなくその地の人々ためになることをやるべきだという理念が大事なのだと理解した。見学後の質疑応答では、社員全員が海外で働きたいと思ってその企業に入社しているわけではなく、全く予定もなく海外で働くことになったとの話を聞き、そのことに関して抵抗はなかったのかという質問をしてみた。すると、入社当時は、海外支社は一つもなく自分がベトナムに行くことに全く予定はなかったが、当時、何か新しいことに挑戦してみたく海外事業に参加してみたとのことであった。そこでは自分が今までやったことのない事の連続だったので大変な思いをしたことがあったが、とてもやりがいはあったと話されていた。これを聞いて私は海外で働くということは自分にとって未知の世界の連続だが、その分自分が成長できる機会の連続ともいえることだと思った。海外で仕事



写真 Takagi Vietnam 訪問時の説明風景

をすることのやりがいや意義の一つを知ることができた。

5. おわりに

今回のプログラムを通してとても多くの経験ができた。自分の目で実際に見てさまざまなことを知れたことがとても多く、自分の視野を広げることができたと感じる。それとともにベトナムやシンガポール以外にも他の国への今興味も湧いてきたので実際に行って自分の目でまだ見たことのない世界を見たいと思うようになった。また、今回のプログラムで自分の将来についての進路を考える上でのヒントが得ることができた。それは、今、自分が大学で学んでいる知識や技術を活かして世界で働けるほどの人間になりたいと考えるようになったことだ。これからはまた自分が持っている知識を広く、深くしていき今後自分がどんな自分になりたいのかどのようなことをしたいのか考えていこうと思う。

とても多くのことを短時間で経験させてもらうことができた。このプログラムでお世話になった皆様に心から感謝いたします。